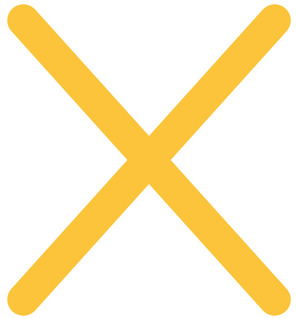
KajiLab

XR プロジェクト



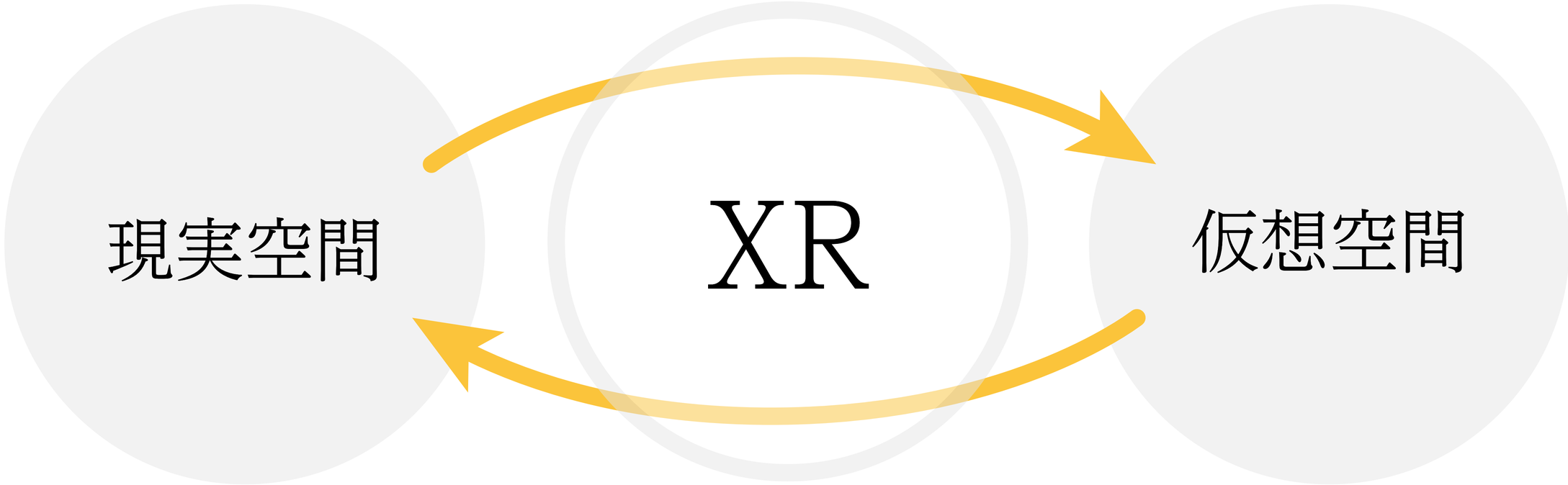
XR プロジェクトとは

現実空間



仮想空間

XR プロジェクトとは



現実空間に仮想のオブジェクトを配置して新しい体験を生み出す



https://twitter.com/fujito88/status/1604375036260888578?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1604375036260888578%7Ctwgr%5E08b1426f8aa0f368ed80a23b80c566724a3fb6c0%7Ctwcon%5Es1_&ref_url=https%3A%2F%2Fkjlb.esa.io%2Fposts%2F5473

AR：現実空間に仮想オブジェクトを配置する技術

ビジョンベース AR

-マーカー型 AR

カメラで読み取ったマーカーの上に
コンテンツを表示する

-マーカーレス型 AR

現実空間の画像を元に
コンテンツを表示する



ロケーションベース AR

-GPS

GPS を使ってユーザー座標を導きだして
コンテンツ表示内容を調整

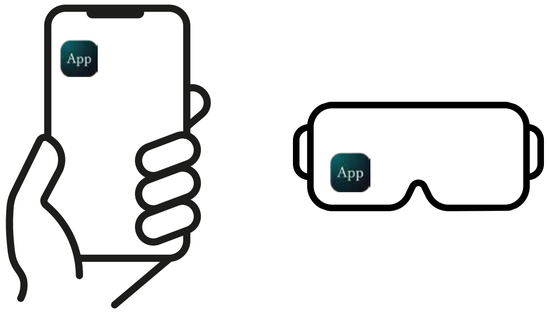
-VPS

GPS とカメラの情報を使って
コンテンツの表示内容を調整



現実空間から仮想空間へのアクセス

端末に依存しない



アプリに依存しない

-ネイティブアプリ



-web アプリ

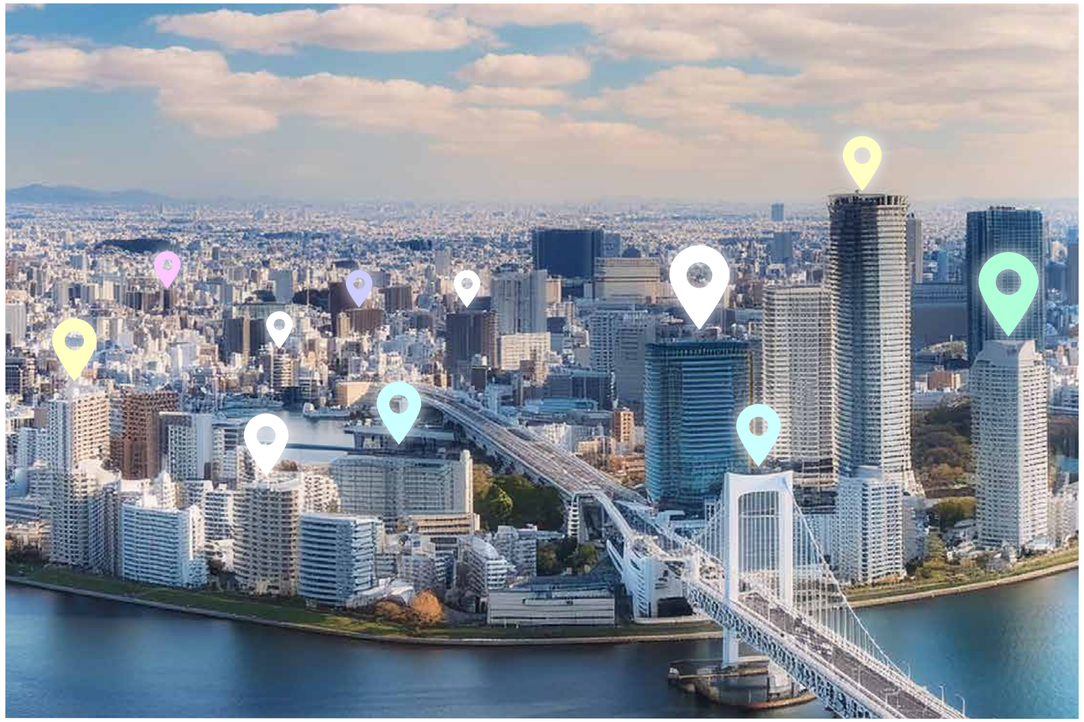
https://web-xr-app.com

場所に依存しない



街中に AR コンテンツが溢れる生活

- たくさん
- さまざま
- あたらしい
- 興味の惹かれる



街中に AR コンテンツが溢れる生活

- たくさん
- さまざま
- あたらしい
- 興味の惹かれる
- 負担がない
- 阻害されない
- コンテンツを魅せる
- 興味の引く



まとめ１

プロジェクトの目的：現実空間と仮想空間が影響し合う社会

目的：

現実空間と仮想空間のシームレスな接続

手法：

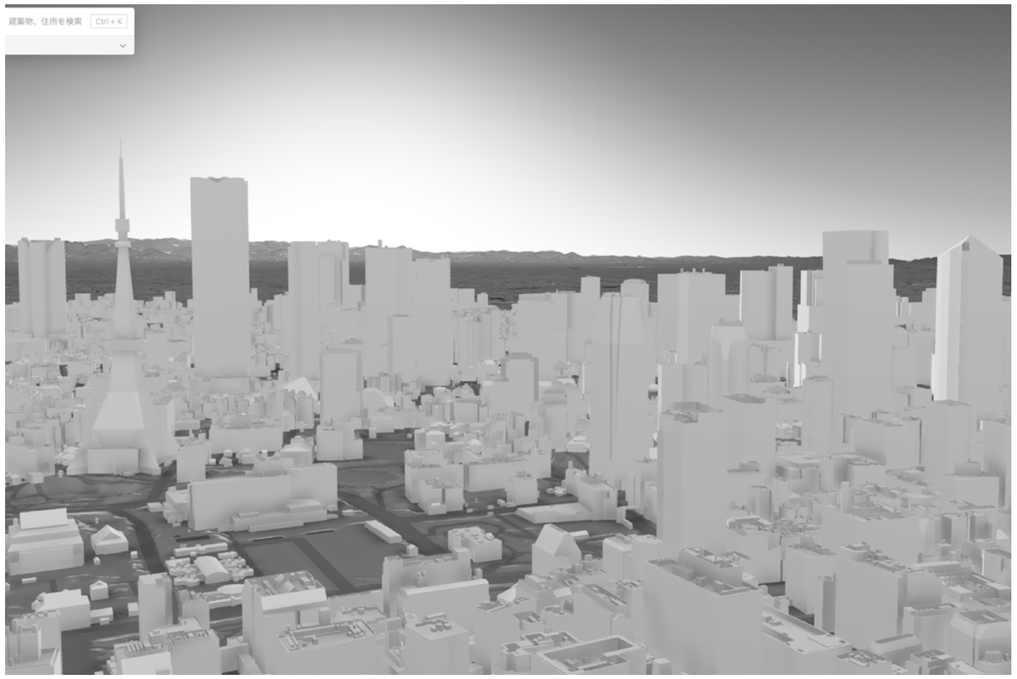
仮想のオブジェクトを現実に表示する体験を
誰もが当たり前に受けられるための基盤作成

現実と影響し合う仮想空間

デジタルツイン

現実空間 → 情報を共有 → 仮想空間





https://plateauview.mlit.go.jp/?share=01hymq5nj9k7gmh2g4rsrtzwac

汎用デジタルツイン

公共性

- 誰でも使える
- みんなで作る

多重性

- レイヤー構造
- 重ねた表現

双方向性

- 現実の情報を同期
- 仮想世界を現実に同期



まとめ２

プロジェクトの目的：現実空間と仮想空間が影響し合う社会

目的：

現実空間と仮想空間が相互に影響する

手法：

現実を仮想世界の１つのレイヤーにして

現実も仮想も双方向に連携させる基盤作成

まとめ

目的：現実空間と仮想空間が影響し合う社会

MR プラットフォーム ✕ 汎用デジタルツイン